

歴博を教室の中へ持ち込もう

— PC で戦国時代の京都を探検する —

昭和学院中学校 神山 知徳

<実践1>

1. 実施学年：中学校第1学年 教科・領域：社会（歴史）

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

①主題名：戦国時代の京都の町並みを探検しよう

②学習のねらい：

「洛中洛外図屏風」という優れた絵画史料の活用を通じて、室町時代（特に戦国時代）の政治・経済・文化についての学習内容をふまえ、屏風絵に描かれた風景や様々な身分の人々に着眼し、その周辺に描かれたいくつかの情報を手がかりに、屏風絵の読み解きができるようにする。また生徒間で教え合い（協働）、相互評価を通じて、歴史的事象をより多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

③使用資料・教材・教具

- ・「洛中洛外図屏風」レプリカ・「洛中洛外図屏風」左隻コピー（ともに歴博から借用）
- ・PC（一人一台）、デジカメ（生徒作品の撮影用）
- ・「京都修学旅行ハンドブック」（京都市観光協会）の複製冊子（一人一冊）
- ・情報整理メモ・セリフ作成シート・セリフ採点票・見直しシートなどのワークシート

3. 指導計画と実践の概要

①本時の位置：

- 室町幕府と経済の発展（1時間）
- 民衆の成長と戦国大名（1時間）
- 室町文化とその広がり（1時間）
- ※特設単元「戦国時代の京都の町並みを探検しよう」（2時間続き）（本時）
- ヨーロッパ人の世界進出（2時間）
- ヨーロッパ人との出会い（2時間）

期末考査（12/17）・答案返却（12/19）

○特設単元「my ミュージアムをつくろう～私の室町時代～」

（希望者で実施。3.5時間続き。〈実践2〉として次に紹介）

②実施日時および指導学級：

平成 21 年 11 月 24 日（火）第 5 時限・第 6 時限… 1 年 1 組（41 名，男 13 名・女 28 名）

11 月 26 日（木）第 5 時限・第 6 時限… 1 年 3 組（40 名，男 12 名・女 28 名）


11 月 27 日（金）第 2 時限・第 4 時限… 1 年 4 組（40 名，男 13 名・女 27 名）


※ 1 年 2 組は 2 時間の枠が取れず、別途短縮版の授業（1 時間）を実施

③場所：本校第 1 情報教室を使用

（LAN でネットに接続できる生徒用コンピュータが 40 台設置されている）

④指導課程：

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	10 分	<p>○本時の授業の進め方を説明する。</p> <p>○PC の使い方について説明する。</p>  <p>左側に左隻コピー、右側にレプリカ（左隻・右隻）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師側 PC で生徒側の PC を監視・制御しながら授業を進める。作業をする時間以外は、ネットに接続できないようにしておく。 採点票（別紙）を示して、採点基準を明らかにしておく。採点基準に照らして優れたセリフを発表した班には、高いポイントを与えることをあらかじめ言うておく。
展開 80 分	15 分	<p>○「洛中洛外図屏風」を紹介し、左隻を中心に各班（4 名程度、10 班構成）ごとに面白そうな所をチェックさせる（実物大のコピーを見させる）。その作業を 2 班ずつ交代で行う。</p>  <p>左隻を 2 班ずつ交代でチェック</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各班の作業は 3 分程度で行う。 右隻についてはレプリカを見せて参考にとどめるが、今回の作業の対象とすることもできる。 待機している班には、各自の PC に表示された歴博のウェブ上で、屏風絵を見させる。  <p>手元の PC でチェック</p>
	25 分	<p>○左隻を見せた後、レプリカも見せて、右隻の中でも面白そうな箇所をいくつか候補に挙げて、チェックしておく。</p> <p>○候補に挙げた箇所は、情報整理メモ（右隻・左隻、別紙）に一つ一つ記入し、各自の PC 上での作業に備える。</p> <p>○以上の作業がすべて済んだら、各班で話し合いをさせ、どの場面を取り上げるか決定させる。その話し合いの場として、左隻（実物大のコピー）または右隻（レプリカ）の前に適宜集まらせ、候補とする場面いくつか付箋を貼らせる。</p> <p>【一旦休憩，10 分間】</p>	<ul style="list-style-type: none"> なるべく高いポイントを得られるような場面を選択するよう各班でよく検討させる。 ワークシートを有効に活用するよう机間巡視で個別指導する。

	20分	<p>○付箋を貼った箇所のうち、最も優れたセリフ（時代背景、季節・時間、人物の様子、場所を含めた人物周辺の様子を総合的に捉え、その状況に最も相応しいセリフ）として考えられるものを班ごとに挙げ、用紙に記入させる。それを屏風絵に貼らせる。</p>  <p>実際の生徒の作品例</p>	<ul style="list-style-type: none"> なぜそのようなセリフを思いついたのか、その理由をしっかりと考えておくように指導する。その際採点票の観点に注目させ、なるべく高い評価をもらえるような工夫をするように促す。 なるべく具体的な場所に注目した発表になるよう指導する。 貼る際は、磁石を使用する。 なぜそのようなセリフを思いついたのか、その理由をしっかりとみんなに伝える。 各班は、より面白くなるように工夫してセリフを発表する。  <p>実際の発表風景</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表している班以外の班は、採点票（別紙）を用いて、発表を採点する。
まとめ	10分	<p>○最後に他の班の発表を見て気がついたことを「見直しシート」に記入させる。記入が終わったら直ちに回収する。</p> <p>○冬休み中に希望者を歴博に引率し、今回の屏風絵に関連した展示物を探しに行くことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「見直しシート」に記入された事柄のうち、興味深いものについては、後日の授業で取り上げ、解説を加える。

4. 成果と課題

○成果

- 生徒それぞれがPCという情報機器や屏風絵のレプリカ・コピーを駆使し、興味深い点を思い思いに指摘（生徒それぞれの学習活動においては平等性が作用）。それを採点基準にしたがって班内で話し合い、調整をしながら一場面に絞っていく（探求的な学習プロセスを一部実現）。その過程で教え合い（協働性）の過程が働いた。
- 担当する教師側の準備段階では説明が難しい点をいくつも指摘（例えば、幽霊のように消えかかっている人物、明らかな書き換えの跡など）。「もっと調べてみたい」という感想多数。次への学習へのステップ、動機付けとしてきわめて有効。
- 「セリフ作成シート」は、ただ漫然とセリフを考えるのではなく、屏風絵に描かれた状況を総合的に捉える意味で有効なワークシート。
- 「見直しシート」は、自己の発表の振り返り、他の生徒の発表に対する評価し、さ

らに学習を発展させるきっかけ作りとしてきわめて有効。(以下記載例)

- ・「他の班の人もよく考えていて、同じ場面でも人によってそれぞれ感じ方が違うなぁと思いました。」→「自分の班や他の班の人たちが選んだ場面が本当は何をしていたのか、知りたいです。」
- ・「一班の発表（左隻・犬追物の場面）のセリフが面白いと思った。他の班も同じ場所を選んでしたが、目の着けどころが違い、面白いと思った。」
- ・「自分が感じていることよりもとてもたくさんの意見があって、すごいなぁと思った。」
- ・「全体的にもっと調べたいけれど、『お風呂』について調べてみたい。」など

- ・実物大の左隻のコピーで屏風絵をマクロに見る作業、個々のPCでミクロに見る作業を効率よく展開できる。PCの台数など多少の条件の差はあれ、ネットにつながった情報教室を持っていれば、他校でも実践が可能。汎用性の高い実践となりうる。
- ・生徒の作業状況や作品をデジカメで撮影し、USBケーブルで接続すればそのまま画像を全体に提示できる。その場で必要に応じて即応性の高い作業が容易にできる。
- ・実物大コピー（左隻）は、横幅がほぼ黒板サイズに収まる大きさであり、かつ紙で軽かったため、マグネットで壁に貼り付けて作業をすることができた。同様に右隻の実物大コピー（最小でも黒板に貼れる程度の大きさで軽いもの）の作成を希望。

○課題

- ・当初はレプリカ（左隻・右隻）を中心に作業をするはずであったが、20名を越える大人数では混み合ってしまう、集団での作業が難しい。
- ・セリフ作成に時間がかかり、発表に十分な時間を割くことができなかった（各班2分程度）。そのため採点はかなりいい加減になってしまった。
- ・生徒による採点の難しさ、適正な評価の難しさ。今後の大きな課題。
- ・この実践には、情報の収集という場面が屏風絵を読み解く以外にない。情報検索の方法としてはやや抵抗もあるが、その場でネット検索させるという機会を作ることにも考えられる。

<実践2>

1. 実施学年：中学校第1・2学年 教科・領域：社会（歴史）

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

①主題名：myミュージアムをつくろう—私の室町時代—

②学習のねらい：

- ・前時の「洛中洛外図屏風」の読み解き作業からさらに興味を持った部分について、それを所蔵し展示する国立歴史民俗博物館で調べ学習を行い（探究）、自分だけのミニ展示を作成し、発表を行う（活用・表現、言語活動の充実）。この作業を通じて、様々

な資料を活用し多面的・多角的に考え公正に判断し、表現するという資料活用能力のさらなる育成を図る。

③使用資料・教材・用具

- ・「洛中洛外図屏風」実物大レプリカ、超拡大自在閲覧装置、実物投影機と画像取り込み用のPC、ホワイトボード（以上歴博から借用）、歴博の展示案内
- ・デジカメ（各自一台持参。用意できない場合は本校から貸出）
- ・文房具（画用紙、色つきサインペン、のり、はさみなど。本校で用意）
- ・ワークシート…「京都修学旅行ハンドブック」の複製冊子（一人一冊）
面白そうな所チェックリスト、情報整理メモ、見直しシート（別紙）

3. 指導計画と実践の概要

①**本時の位置**： 希望者を対象に、冬休み中に実施。3.5 時間扱い

②**実施日時および指導生徒**：

- ・実施日時 平成 22 年 1 月 6 日（木）午前 10 時半～午後 3 時
- ・指導生徒 生徒 8 名（中 1 生徒 5 名、中 2 生徒 3 名）※参加生徒は希望者

③**場所**： 国立歴史民俗博物館ガイダンスルームおよび第二展示室・第三展示室など

④**指導課程**：

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	
導入	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の進め方について説明する。 ○展示物を撮影する際の注意点について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラの使用方法（フラッシュを焚かない）、筆記用具は鉛筆のみ 	
展開	190 分	 <p>超拡大自在閲覧装置を使って細部までチェック</p>	 <p>レプリカをじっくりと観察</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスルームで、「洛中洛外図屏風」の実物大レプリカと超拡大自在閲覧装置を使って、改めて「洛中洛外図屏風」の中で興味を持った部分について見直しをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒への対応については、館側のご協力を得る。 ・今回は個人の活動に限定して行った。テーマ設定の途中で、他の生徒との意見交換を入れた方がよいと思われる。
		<ul style="list-style-type: none"> ○興味を持った部分についていくつか候補が挙がった時点で、テーマ設定の方法について具体的にウェビングの手法を用いて説明する。テーマを焦点化する。 ○何についてのミニ展示を作るか、最終的にテーマ選びをする。テーマ選びに際しては、館職員のご協力を得る。 		

	<p>また調べ学習をする展示室の展示物について、どのような物があるか具体的に館職員にサジェスチョンをいただく。</p> <p>40分 ○上の内容に関連した展示を第二展示室から見つけ出す（場合によってはその他の展示室の見学も認める）。 【一旦休憩、昼食を摂る】</p> <p>90分 ○生徒の撮影したデータを集め、一つにまとめて歴博に手渡す。プリントをお願いしている間に画用紙を渡し、「myミュージアムをつくろう～私の室町時代～」の下書きを始める。 ○プリントを預かったら、のりとはさみ、サインペンを使って、実際に作業を始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジカメとメモを持っていく。 〔フラッシュを焚かない、インクのペンは持って行かない〕 ・プリントを待っている間に、自分のデジカメで画像をチェックし、どのような作品が出来るか、構想を練る。 ・使用する写真の数は数点に限定 ・この間個別に作業状況を確認し、適宜指導する。
20分	<div data-bbox="427 846 914 1193" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">作品製作の様子</p> <p>○発表開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「武士の暮らし」（中1） ●「商人の荷物について」（中1） ●「家造りの道具」（中1） ●「室町の商業」（中1） ●「武士の生活」（中1） ●「室町時代の祭り」（中2） ●「中世の芸能」（中2、2名） <div data-bbox="427 1579 914 1881" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">実物投影機を使ってレポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機を用いて発表することを説明しておく。 ・発表に際しては、まず「洛中洛外図屏風」のどこに着目して今回の発表を行うか、動機をはっきりさせるよう指導する。 <div data-bbox="970 1579 1401 1881" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">まずはどこに注目したか説明</p>
まとめ	<p>10分 ○発表について、歴博職員からの講評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品は実際には完成しなかったもので、翌日完成させて提出するように指導。その際「見直しシート」も提出するように連絡をする。

4. 成果と課題

○成果

- ・本時の実践は、2005年度「先生のための歴博講座」で佐藤優香助教が実施したワークショップ「3点ミュージアム」を生徒に実践してみたものである。佐藤先生の実践は教員に博物館展示が持つ意味を考えさせようとするものであったが、本時では生徒の調べ学習の成果を表現する方法として活用し、一定の成果を得たように思う。
- ・わずかな時間であったが、博物館展示を調べ学習の場として利用し、探究する機会を与えることができた。またその成果を「myミュージアム」として発表させたことで、生徒にとっては、自分だけの博物館展示を形にすることができ（活用・表現）、とりあえずは満足したようだ。その感想は次の通り。

「材料がそろっていなかった。」「もっと深く調べれば良かった。」「他の人ほど調べられなくて、まとめるときに困った。」「ワークショップをやって、楽しかった。屏風から興味のあることを探し出して、一つに絞るのは大変だったが、できてうれしかった。またやってみたい。」「どう発表するかもっと頭の中でまとめてから発表すれば良かった。またもう少し展示室でメモした方が、内容をふくらませることができた。」「発表は最初の方はうまくできた。発表ではないけれど、myミュージアムは上手に作れたと思う。」「中学2年生はさすがだな！と思った。発表はすごくわかりやすかった。」「初めて歴博に行ったけれど、すごく楽しかった。また行きたい。」

○課題

- ・〈実践1〉では班単位の活動であったのに対して、今回は個人の活動に限定して行った。その結果教え合い(協働)の場が設定できなかった。時間をうまく設定して、テーマ設定の途中で、他の生徒との意見交換を入れた方がよいと思われる。
- ・たった8名の実践で、博物館側のスタッフを総動員(5名)することになってしまった。そのため目の行き届いた充実した実践となったが、参加者がこれ以上の人数になったらうまくいくかどうか心許ない。
- ・生徒作品および発表の評価方法については、やはり今回も具体的に検討できなかった。今後の重要な課題。

5. [わたしの考える歴博活用案<実践1>~歴博を教室に持ち込もう~]

展開(使用する「洛中洛外図屏風」の実物大コピーとして右隻も用意したパターン)

※ネットを使って情報検索するという探究の場面を設定

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	10分	○本時の授業の進め方を説明する。 ○PCの使い方について説明する。	・教師側PCで生徒側のPCを監視・採点票(別紙)を示して、採点基準を明らかにしておく。採点基準に照らして優れたセリフを発表した班には、高いポイントを与えることをあらかじめ言うておく。

展開 80分	15分	<p>○「洛中洛外図屏風」を紹介し、各班（4名程度、10班構成）ごとに左隻、続いて右隻と続けて見させる。その上で面白そうな所をチェックさせる（班ごとに色分けされた付箋を貼らせる）。その作業を2班ずつ交代で行う。</p> <p>○候補に挙げた箇所は、情報整理メモ（右隻・左隻、別紙）に一つ一つ記入し、各自のPC上での作業に備える。ネットで情報検索することも許可をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の作業は3分程度で行う。 ・左隻・右隻のコピーは、教室の壁に対になるように貼り付ける。 ・待機している班には、各自のPCに表示された歴博のウェブ上で、屏風絵を見させる。 ・ネット検索する場合には、必ず教員の許可を得てから行うことを守らせる。調べた結果はその都度教員に報告し、その情報をどう使うか教員の助言を受ける。
	25分	<p>○以上の作業がすべて済んだら、各班で話し合いをさせ、どの場面を取り上げるか決定させる。その話し合いの場として、左隻または右隻の前に適宜集まらせ、候補とする場面を話し合いで絞らせる。</p> <p>【一旦休憩、10分間】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく高いポイントを得られるような場面を選択するよう各班でよく検討させる。 ・ワークシートを有効に活用するよう机間巡視で個別指導する。
	20分	<p>○付箋を貼った箇所のうち、最も優れたセリフ（時代背景、季節・時間、人物の様子、場所を含めた人物周辺の様子を総合的に捉え、その状況に最も相応しいセリフ）として考えられるものを班ごとに挙げ、用紙に記入させる。それを屏風絵に貼らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのようなセリフを思いついたのか、その理由をしっかりと考えておくように指導する。その際採点票の観点に注目させ、なるべく高い評価をもらえるような工夫をするように促す。
まとめ	10分	<p>○最後に他の班の発表を見て気がついたことを「見直しシート」に記入させる。記入が終わったら直ちに回収する。</p> <p>○冬休み中に希望者を歴博に引率し、今回の屏風絵に関連した展示物を探しに行くことを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「見直しシート」に記入された事柄のうち、興味深いものについては、後日の授業で取り上げ、解説を加える。

○ 参考文献

- ・水藤真『歴博甲本 洛中洛外図屏風を読む』（歴博ブックレット⑪）1999年
- ・小島道裕『描かれた戦国の京都 洛中洛外図屏風を読む』吉川弘文館、2009年

